

2. 車いす編

(3) 体験プログラム例

② その他

目 的	自分たちの街は、車いすにやさしい街か考えよう
場 所	自分たちの学校のある地域
準 備	学校のまわりの地図(2500分の1程度)、ラインマーカー(3色)、グループづくり(1グループ5～6人)
活 動 内 容	①調査する場所をよくたしかめ、グループごとに担当ブロックの調査を行う。 ②調査は車いすに乗って行う。 ③調査が終わったら、教室にもどり、担当ブロックの車いすマップをつくる。 ④全部のマップを貼り合わせ、学校のまわりの車いすマップを完成させる。 ⑤学習したことをレポートにまとめる。
グ ル ー プ づ く り	・ 学校区域を数ブロックに分け、1つのグループが1つのブロックを担当する。 ・ 自分の担当しているブロックについて、1人が1つのテーマをえらんで調べる。 ・ グループごとに作ったマップを貼り合わせて、1枚の車いすマップを完成できるように、あらかじめ調査項目の略号(例：スロープがあったところは㊷など)を決めておく。
調 査 す る 内 容・場 所	1, 主な調査内容 ・ 車いす用のスロープの有無 ・ 車いすでも利用できる水道・自動販売機の有無 ・ 段差があって車いすだと1人で通れない場所 ・ 交通量が多いのに歩道がないところ ・ エレベーターの有無と広さ(中で車いすがターンできるか) ・ 入り口の広さ・ドアの開閉状況 など 2, 主な調査場所 ・ 学校を中心とした道路状況 ・ 役場、老人福祉センター、図書館などの公共施設 ・ コンビニ、スーパーマーケット、デパートなど人が多く利用する場所 など

他にも…

- ・ 施設で生活している高齢者や障害者の人たちと車いすで散歩する。
- ・ 車いすで働いている人たちの様子を知る。
- ・ 車いすバスケットボールチームや、車いすダンス、チェアスキーなど、車いすスポーツに触れてみる。